01 江戸の広がり

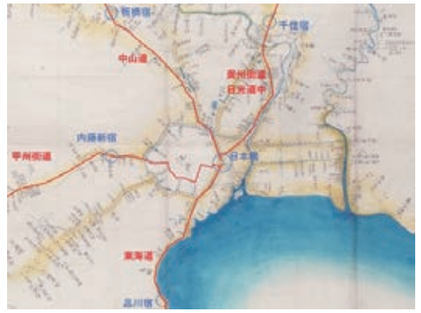
天正18(1590)年に徳川家康(とくがわいえやす)が江戸に入府すると、城下町等の整備が進められました。慶長8(1603)年に江戸幕府が開府されて以降の都市建設の中で、神田山を切り崩した土を用いて、低湿地であった豊島洲碕(としまずさき)(現在の日本橋浜町から新橋にかけての場所)が埋め立てられ、市街地が造成されました。

慶長6(1601)年には、江戸と各地を結ぶ街道の整備が始まり、慶長9(1604)年には日本橋が各街道の起点として定められました。こうして五街道をはじめとした江戸と各地を結ぶ交通網が整備されるとともに、江戸は全国の大名や旗本・御家人等の家臣団が集まり、日本の政治・社会・文化の中心地として発展しました。

埋立ての変遷
江戸幕府によって埋立てが始まるまでは、旧平川河口部に日比谷入江、その東に江戸前島(現在の銀座から日本橋)、さらに東側に石神井川河口部の江戸湊が位置していました。慶長8(1603)年、日比谷入江が埋め立てられ、市街地が拡大しました。
(左)出典:国土交通省関東地方整備局「東京港の変遷」に基づき作成。

江戸初期(16世紀末)の水路
出典:鈴木理生『江戸の川・東京の川』(井上書院)に基づき作成。

寛永江戸全図　文京区立図書館所蔵
「明暦の大火」以前、江戸初期の江戸市街地を示す最古の地図。主に隅田川の西側に市街地が広がっていました。



五街道と宿場町
五街道沿いには、物流を担う飛脚や宿泊所のある宿場が設置され、宿場町が形成されました。特に、内藤新宿、品川宿、千住宿、板橋宿は江戸に最も近い宿であり、「江戸四宿」と呼ばれ概ね江戸の市街地の外郭となりました。
出典:「伊能大図彩色図」に加筆。

日本橋　「新撰江戸名所　日本橋雪晴ノ図」国立国会図書館蔵
五街道(東海道・甲州街道・奥州街道・日光街道・中山道)の起点として定められた日本橋は、多くの人々でにぎわいました。

板橋宿　「第二 木曽街道板橋之駅」国立国会図書館蔵
中山道沿いに設けられた宿場(現在の板橋区本町、仲宿、板橋一丁目、三丁目周辺に立地)。

名所江戸百景　千住の大はし
都立中央図書館特別文庫室所蔵
千住宿は、日光・奥州街道沿いに設けられました。付近には千住大橋や千住青物市場があるなど、物流の拠点ともなっていました。

名所江戸百景　四ッ谷内藤新宿
都立中央図書館特別文庫室所蔵
甲州街道沿いに設けられた宿場(現在の新宿区四谷四丁目から新宿三丁目付近に立地)。

品川宿　「東海道五拾三次 品川・日之出」国立国会図書館蔵
東海道沿いに設けられた宿場(現在の京急本線・北品川駅―青物横丁駅付近に立地)。西国から江戸に到る際の玄関口としてにぎわいました。